

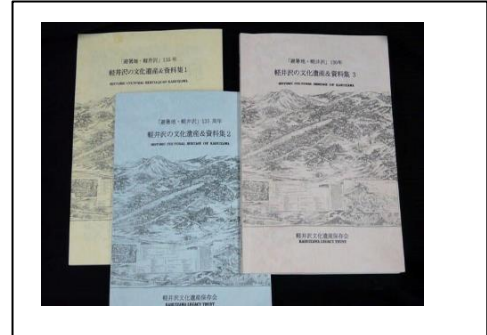
(様式第 11 号) (第 14 条関係)

令和 4 年度 「みんなの力でつくるまち」活動支援事業評価報告書

事業名	「美しい村」の未来へ向けて、歴史的文化的資産と保全活用のまちづくり
団体名 (連絡先)	軽井沢文化遺産保存会
総事業費	306,536 円 (うち補助金: 130000 円)

事業内容

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、最初の 2 年度は対面による事業を行えなかった。最後の今年度は辛うじて対面の「軽井沢学・別荘学講座」1 回、対面とオンライン併催の同講座を 1 回、別荘見学会を 1 回、開催できた。一方、『軽井沢の文化遺産&資料集』は全三部作が完成し、取り壊された「川端康成別荘」特集や正宗白鳥別荘と「誌碑」の移設特集にも取り組むことができた。「文化遺産別荘バンク」の設立とその運営も順調であった。



『軽井沢の文化遺産&資料集』全 3 巻完成

事業効果

2019 年に現存する最古の明治の洋館・和館別荘「三井別荘」が取り壊され、2021 年にはノーベル文学賞受賞作家の「川端別荘」が取り壊され、日本で唯一の歴史的避暑地ともいえる軽井沢でその原風景が確実に失われていく現実には有志や任意団体ではなすすべもないことを痛感させられた 3 年間であった。対面やオンラインの事業、文化遺産別荘バンクの設立と運営、「資料集」全 3 巻の刊行などはその歯止めの一石であり、事業効果もあったが、事業活動の限界も露呈した 3 年でもあった。

【目標・ねらい】

- 軽井沢の原風景とはなにか
- 軽井沢の文化遺産を保全する意識の官民共有と連携活動
- 軽井沢の文化遺産の次世代継承
- 「軽井沢文化遺産別荘バンク」運用による保全と利活用
- 軽井沢の文化遺産別荘バンクの設立と運営

自己評価 (目標達成率) 【A】

今後の取り組み

今、軽井沢町は百年に一度の変貌期を迎えている。旧軽井沢地区をはじめ、明治・大正・昭和戦前に醸成された軽井沢の歴史遺産・地域資産が大規模に失われつつあり、もはや待ったなしの状況にある。この現状と今後について町をはじめ住民や別荘住民がどうする (したい) のか、ヴィジョンを描き、対策を講じなければ軽井沢町は世間によくあるふつうの観光の町になってしまうだろう。ひき続きこれまでの諸活動・諸事業を拡充していきたいが、一団体の活動では限界があり、関連団体と連携し、軽井沢の歴史的文化的資産の保全と活用によるまちづくりに貢献していきたい。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。